

# 第3回 ナノ学会大会開催

## 医学、薬学、物理学、工学、生物学など 広範な分野から発表

# 広範な分野から発表

ナノ学会(会長 井上幸二・理化学研究所長) 第三回大会が五月八日から三日間、仙台市の仙台市民会館で開催された。第三回大会は、ナノ医療、分子エレクトロニクス、ナノバイオロジー、クラスター、超微分子集合体、超微粒子材料、超微細構造体、生物関連分子など、ナノスケール物

質系の生成や物性・反応性機能性に関わる化学、物理学、生物学、工学、医学および薬学の広い分野からの研究者五百名と一般市民五百名が参加、オール講演二十件、ポスター発表二百八十一件の発表があった。さらに、特別講演二テーマ、元科学技術政策担当大臣も参加したパネルデ

イスカッションがあり、市民へも開放された新しいタイプの学会として大盛況だった。続いて、十一日、十二日にサテライトとしてのナノ粒子の基礎研究に特化したワークショップも開催され、二十分講演二十五件の発表があった。今大会は、「ナノテクノロジーの基礎から実用化への道」を主題にかけ原子・分子を制御したナノスケール材料が示す新奇な物性に関する実験的・理論的理解の現状と、その産業化・ビジネス化への課題について、産官学に属する研究者と事業化に関わる起業人が結集して、それぞれの立場に立って基礎研究から特許化、安全性、新産業育成まで幅広く討論し、認識を共有することを目的としたもの。

プログラムは特別セッションとして「ナノ医療」(樋口秀男・東北大学教授、大内憲明・同) また、特別講演「韓国におけるナノテクノロジー開発の現状」(李哲・National Nanofab Center 所長) が行われた。同センターは二〇〇二年に国策として設立さ

された。また、「ナノテクノロジーとマイクロテクノロジーによるモノづくり」(一般市民公開、スパー・サイエンスハイスクールとして宮城第一女子高等学校から二百名が参加)では、江刺正喜・東北大学教授が半導体集積のマイクロレベル技術の紹介から、分子レベルのナノテクノロジーとの組み合わせによる第一線の研究開発の現状が役に立つ



パネルディスカッションの模様

「ナノ学会 第三回大会」の模様。ステージには「ナノ学会 第三回大会」の横断幕が掲げられ、参加者たちがパネルディスカッションに参加している様子が見られる。

「ナノ学会 第三回大会」の模様。ステージには「ナノ学会 第三回大会」の横断幕が掲げられ、参加者たちがパネルディスカッションに参加している様子が見られる。

「ナノ学会 第三回大会」の模様。ステージには「ナノ学会 第三回大会」の横断幕が掲げられ、参加者たちがパネルディスカッションに参加している様子が見られる。

「ナノ学会 第三回大会」の模様。ステージには「ナノ学会 第三回大会」の横断幕が掲げられ、参加者たちがパネルディスカッションに参加している様子が見られる。